

平成31年度 幸小学校 授業改善推進プラン

1 授業改善推進プランにおける学校としての授業改善の基本方針

本校では学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、以下の基本方針に基づいて授業改善を行う。

(1) 課題設定、自立解決、検討・共有、まとめといった

一単位時間の学習の流れを意識して授業を行う。

(2) 教科の特性や発達段階に即して、

毎時間、図・表・グラフ等の資料や既習事項を十分に活用するとともに、

ノートやワークシート、視聴覚機器等を工夫し、

課題追究の場面や表現する場面、ペアやグループなどで

友達と検討・共有する場面を設定することを通して、

○課題意識（問い）をもたせる。

○根拠をもって自分の考えをもつ。

○様々な場面で共有を図り、共通点や相違点（統合）や次にやりたいこと（発展）を見出させる。

(3) 毎時間又は小単元ごとに、児童が学習を振り返る時間を設定し、児童がまとめたノートやワーク

シートなどの提出物から、思考・判断・表現の観点について評価する。

2 児童の現状

(1) 平成31年度のデータ（東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査より）

☆各教科の調査結果（正答率）

A 教科の内容		
教科	5学年	東京都
国語	65.2%	67.6%
社会	65.1%	66.7%
算数	58.6%	60.1%
理科	56.0%	56.8%

☆観点別の調査結果（正答率）

A 教科の内容								
教科	思考・判断・表現 (国語：話す・聞く)		技能 (国語：書く)		知識・理解 (国語：言語)		読む	
	5学年	東京都	5学年	東京都	5学年	東京都	5学年	東京都
国語	63.2%	65.3%	66.7%	70.4%	64.4%	67.4%	66.7%	67.4%
社会	62.1%	63.5%	64.1%	66.8%	71.1%	70.6%		
算数	45.4%	47.2%	63.3%	65.0%	67.0%	67.6%		
理科	53.4%	53.0%	69.7%	67.0%	51.5%	55.0%		

(2) 各教科の内容について

学力調査の結果から読み取れる児童の学力についての「定着している点」と「課題点」は、以下の通りである。

国語

①【言語についての知識・理解・技能】

○漢字の読み・書きともに正答率 86%と高く、ほぼ定着している。

②【書く能力】

○手紙の基本的な形式を問う問題が正答率 35.1%と低く、形式の意味を理解し実用的な文章としての手紙を書く力に課題がある。

③【話す・聞く能力】

○話し合いを基に考えることに関する問題が正答率 45.6%となっており、話し合いにおいて互いの意見の共通点や相違点に着目して整理する力に課題がある。

④【言語についての知識・理解・技能】

○主語・述語の対応に関する問題が正答率 36.8%、修飾語・被修飾語の関係に関する問題が 38.6%と低くなっている。

○文の中での語句の係り方や主語・述語の対応の仕方に気付き、文にはいろいろな構成があることを理解する力に課題がある。

社会

①【観察・資料活用の技能】及び【社会的事象についての知識・理解】

○それぞれ、四方位に関する問題は正答率 84.2%、東京都の土地の高さに関する問題は正答率 96.5%と高く、地図の基本的な見方や活用の仕方はほぼ身に付いている。

②【観察・資料活用の技能】

○図やグラフ、人の話から分かることを問う問題が正答率 45.6%となっており、複数の資料を比較・分類、統合して、資料から何が分かるか考え、表現する力に課題がある。

③【社会的事象についての知識・理解】

○日本地図から都道府県の位置を問う問題が正答率 45.6%、東京都の地図から立川市の位置を問う問題が正答率 75.4%であり、他の都道府県（市町村区）の施設の位置を把握するとき東京都（立川市）との位置関係を確認めたり、東京都や立川市の位置や各都道府県の位置を地図で確かめたりする学習を繰り返し、知識を身に付けることが必要である。

算数

①【数量や図形についての技能】

○ある数を他面的に見る問題は 3 問とも正答率 94.7%、78.9%、73.7%と比較的高く、数についての感覚が豊かになってきていると言える。

②【数量や図形についての技能】

○小数の引き算は正答率 47.4%、小数のかけ算は 54.4%、小数のわり算は 22.8%と低く、定着していないことが分かる。

○計算の意味について考え、理解をし、正しく処理する力に課題がある。

③【数学的な考え方】

○提示された図と表から式を立てる問題が正答率 26.3%と低くなっており、図と表と式を相互に関連させて、数量関係を捉える力に課題がある。

理科

①【観察・実験の技能】

○温度計の使い方の問題は正答率75.4%、はかりの使い方の問題は91.2%と比較的高く、実験器具の使い方は定着してきている。

②【自然事象についての知識・理解】

○電気の通り道の名称「電流」に関する問題は正答率26.3%と低く、理科の事物・現象についての言葉が定着できていない。

③【科学的な思考・表現】

○活動を基に問題をつくる設問は57.9%となっており、複数の自然の事物・現象を比較し、その差異点や共通点を基に問題を見いだす力の育成に課題がある。

3 児童の学力・学習状況の課題

※下線部分は、基本方針と関連した課題

教科	課題
国語	<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拾い読みをするなど、音読に課題がある。 ・ 書く力の個人差がある。 ・ 話を正しく聞き取ったり、最後まで聞こうとしたりする力が十分でない。 ・ 読書量、語彙力に大きな個人差がある。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 順序立てて説明したり、文章を書いたりする力にかなり個人差がある。 ・ 大事なことや中心になることは何かを見付けられない場合が多い。 ・ 自分と相手の意見を比べながら考えて話を聞いたり、メモを取ったりする力に個人差がある。 ・ 文字を丁寧に書く意識がまだ十分ではない。 ・ 習った漢字を普段の文章に十分活用することを苦手とする傾向がある。 ・ 漢字の習熟に課題がある。特に中学年になり、教科数が増えた中で漢字への意識が低くなっている。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聞いていることを正しく聞き取ったり、要旨を捉えたりすることに苦手意識がある。 ・ 伝えたいことの中心を考えて、文章構成をすることに課題がある。 ・ 学習した漢字を覚え、使いこなせない場合がある。 ・ 読み取った文章の意味を理解するのに時間を要することが多い。 ・ 読み手を意識し、正しい文章を書くことが苦手である。 ・ 筆者の考えの中心を読み取ることを苦手とする傾向があり、それに対する自分の考えが構築できない。 ・ 相手の意図を捉えて、話の要点をまとめたり、内容を確認したりすることが苦手である。
社会	<p>中学年 高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地図や表など資料から情報を正確に読み取る学習では、複数の情報から適切な情報資料を選んで活用することが不十分である。 ・ 課題を意識して、見学したり調べたりしたことを自分の言葉でまとめることが不十分である。必要な情報を写す作業になっている場合が見られる。

	<ul style="list-style-type: none"> 調べた知識を、実際の生活に活用しようとする意識がまだ十分ではない。
算数	<p>全学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算力の差が大きい。 単位を正しく書くことが不十分ではある。 数直線、テープ図など図を活用して問題を解く習慣を付けることに課題がある。 共有の場面において、他者の意見を聞いて理解したり、考えを深めたりすることに課題がある。また、「他の児童に理解しやすいように」という視点をもって考えを説明できるようにする必要がある。 文章題を読み取る力が充分でなく、計算の意味を理解して演算決定する力の育成に課題がある。 既習事項の定着が不十分な場合が多い。 共有の場面では、一方的な話し合いが多い。学び合うのではなく、伝えているだけである。 <p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 時刻や時間や長さ（単位の換算）の単元でつまづく場合が多い。また、感覚的に長さを捉えることが苦手であり、まだ量感が育っていない。 10の補数や数に対していろいろな見方・考え方ができず、おおよその答えを予想するのが苦手である。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 九九の習熟が不十分な傾向がある。 分かっていることや問われていることが何かを、正しく読み取ることを苦手としている。 発表する児童が偏っている。自分の意見を伝えることを苦手としている傾向がある。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 計算の習熟の差が大きい。 言語活動を苦手としている。式を説明する力の育成に課題がある。
理科	<p>中学年 高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> グラフや表などの資料から結果を読み取ることが苦手である。 専門的な用語の知識が不十分である。 課題意識をもって実験・観察することに課題がある。 実験・観察で確認した事象を根拠として結論をまとめることが苦手である。 実験・観察で理解したことを活用することが苦手である。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 観察活動の際に、どのような観点で観察すればよいか迷ってしまう傾向がある。 気づきが共有されず、個別のものになりがちである。 気づきを表現する方法が観察カードに偏り、表現方法が単調になっている。 地域について体験的に学ぶ機会が少ない。
音楽	<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで活動する際に学習の目的からそれることがある。 鑑賞学習について、自分の感じたことを表現することが難しい。 音楽に合わせて体を動かしたり、友だちと声や音を合わせて演奏したりすることが苦手な場面が見られる。 <p>中学年</p>

	<ul style="list-style-type: none"> • 技能面での個人差がある。 • 曲想と音楽の構造などの関わりについて、結び付けて考えることが十分ではない。 • お互いの演奏に関心を持って聴くなど、協働して音楽活動に取り組むことが不十分である。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> • 技能面での個人差がある。 • 曲想と音楽の構造などの関わりについて、結び付けて考えることが十分ではない。 • 表したい音楽表現をするための手立て(なめらかに歌いたい/盛り上げて歌いたいなど)とそれを実現させるための技能(フレーズを一息で歌う、音と音をつなげて/息のスピードをあげるなど)の引出しが不十分である。
図工	<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> • 見通しをもたずに取り組み、すぐに終わらせてしまう傾向がある。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> • 集中力がとぎれてすぐに終わらせてしまう傾向がある。 • 発想することを苦手とする場面が見られる。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> • 発想することを苦手とする場面が見られる。 • 他の友達とアイデアを共有することを苦手とする傾向がある。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> • 調理や裁縫の実習に興味をもって取り組んでいるが、技能面での差や興味・関心の持続に差がある。 • 生活に関する基本的な知識や経験の差が大きく、自らの生活に十分に生かせない。 • 家庭での活動が宿題で出た際に、取り組むことが難しい場合がある。
体育	<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> • バランス感覚が弱い。 • 周りの友達や物によくぶつかる傾向がある。 • 運動感覚が備わっていない。 • 苦手な運動に取り組もうとしない場面が見られる。 • 運動の技能のポイントを意識しないで、何となく活動している傾向がある。 • 学び合いに慣れておらず、効果的に学び合うことが十分できていない。 • 勝ち負けにこだわりすぎる点があり、気持ちよく運動に取り組むことに課題が見られる。 <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> • ボールを使った運動が苦手（特に投げる運動）である。 • 技能面、体力面で偏りが大きい。（学習したことを他の運動に生かせない。） • 運動が得意な児童が苦手な児童に配慮することなく運動に取り組んでしまうことがある。 • 勝ち負けにこだわりすぎる点があり、気持ちよく運動に取り組むことが苦手な傾向がある。 • 話し合いがうまく進められない。 <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日常から運動に触れている児童と触れていない児童で、体力差が大きい。 • 勝ち負けのつく内容に取り組むと勝ち負けにこだわりすぎる傾向にあり、楽しんで取り組むことができないことがある。 • 鉄棒や器械体操、水泳等で自分の課題を客観視しながら取り組むことが難しい。

外国語活動	中学年 ・学習に対する興味・関心に差がある。 ・意欲的に行っているが、レポートやアンサーの場面では、自信をもって発言できない、恥ずかしく目を合わせられない場面が見られる。
	高学年 ・意欲的に行っているが、レポートやアンサーの場面では、自信をもって発言できない、恥ずかしく目を合わせられない場面が見られる。 ・学習に対する興味・関心に差がある。

4 授業改善策

※下線部分は、重点的に取り組む授業改善策

教科	課題解決のための手だて・方法
国語	<p>1、2年</p> <p>○文節に区切って読むなど、語のまとまりを意識して読めるようにする。</p> <p>○話の聞き方のポイントを示し、常に意識させ、自己評価させる。</p> <p>○二人組の対話など、話す・聞く活動を多く取り入れる。話をしたり、聞いたりするときのポイントを掲示し、常に意識させる。話型を示し、課題をもつ児童への支援をする。</p> <p>○経験したことを文章に書く活動を多く取り入れ、書く活動を多くし、書き方（型や表現の仕方）を丁寧に教える。また、苦手な児童には、友達の意見を聞いて、似た意見を書かせるようにする。</p> <p>○読書カードを活用したり、図書時間に色々なジャンルの本を読み聞かせや紹介活動を取り入れたりして、読書の幅を広げる。読書月間の本の紹介カードも活用し、本を手にする機会を増やす。</p> <p>3、4年</p> <p>○漢字のへん、つくりなど部首の仲間分けをしたり、書き順を言葉で表す教材等を活用したりする等、漢字への苦手意識を緩和しながら意欲付けをし、練習させるようにする。また、新出漢字を学習する際に、ただ覚えるだけでなく漢字の成り立ち方などを関連付けて学習できるようにする。技能面でも、折れやはね、線の長さ等に対する意識を高める声かけをする。</p> <p>○課題意識や相手意識を明確にもった書く活動を多くし、書き方（型や表現の仕方）を丁寧に繰り返し教える。また、苦手な児童には、書きたいことを口頭で言わせてから書くように指導していく。</p> <p>○文章を書くことに課題のある児童に対しては、根拠をもって自分の考えを伝えるための文型を提示し、取りかかりやすいように支援する。児童の作文から手だての有効性や課題を把握し、次の作文単元にフィードバックさせる。</p> <p>○課題意識や相手意識を明確にした話すこと・聞くことの学習課題を設定し、根拠をもって相手に伝えるペア学習やグループ学習などの学習形態を工夫し、共通点や相違点を発言するための話形を提示する。</p> <p>○初発の感想だけでなく、話のあらすじ、登場人物、場面の様子を踏まえて新たに感想や問いがもてるようにする。</p> <p>5、6年</p> <p>○漢字の学習の際には、へんやつくりの意味と結び付けて指導する。</p> <p>○接続語に注意させ、段落相互の関係を図に表すようにする。</p>

	<p>○学習の中で意図的・計画的に国語辞典を使い、語彙を増やす。</p> <p>○文章構成メモを書いてから作文に取り組みさせる。習った漢字や教科書で学んだ熟語や言い回し等を作文で活用する。</p> <p>○言語活動、話し合い、討論を多く取り入れ、主体的に活動できる場を増やす。</p> <p>【読み解く力を育む指導】</p> <p>○文章読解では、問題に関わる部分だけを読むのではなく、文章全体を読んで問題に関わる部分を見付けさせる。</p> <p>○説明文の指導では、筆者がどのようなことを伝えるために具体例を出しているのか、同じ内容をどのように言い表しているのかを考えさせる。</p> <p>○説明文の指導では、具体例を通して筆者の込めた思いを考えさせる。</p> <p>○物語文の指導では、本文に書かれている言葉の意味を正確に捉えたり、前後の文脈から情景描写で作者が伝えたいことを正確に読み取ったりして、物語文の世界を味わわせる。並行読書も行う。</p>
社会	<p>3、4年</p> <p>○身近な生活、地域に結び付け、自分自身の生活や地域について知り、「なぜだろう」や「どうしてだろう」と考える活動になるよう指導する。ICT 機器を活用して、実際の様子などを見せて、自分自身の生活や地域に密着していることを意識付けさせる。</p> <p>○児童が興味関心をもつ課題を設定し、それを解決するための見学・体験・調べ学習を行い、気付きや考えを共有し、まとめるという学習の流れを意識した授業を行うことで、理解の深化や定着をはかる。</p> <p>5年</p> <p>○社会科クイズを行い、関心、意欲の向上を図る。</p> <p>○学習問題を明示し、その答えとしてのまとめをきちんと書かせる。</p> <p>○ICT機器を使った授業を行い、新聞、インターネットから情報収集と活用を行う。</p> <p>○読み取った情報を記号や表を使って関係性を考えながらまとめさせる。</p> <p>○課題を把握してその解決に向けてペアや班等で意見を出し合い、考えたことや選択・判断したことを説明したり、まとめたりする活動を行わせる。</p> <p>6年</p> <p>○学習課題について自分なりに見通しをもつこと、推論をすること、資料を調べることという問題解決の過程を意識して指導する。</p> <p>○歴史では、学習している時代だけでなく、時系列や場所を押さえて時間の経過、位置や空間的な広がりなどにも着目させる。</p> <p>○ICT機器を使った授業を行い、新聞、インターネット等から情報収集と活用を行う。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックに興味をもてるよう、授業計画を基に学習をする。</p> <p>○知識理解を深めるために、ノート作りを行う。</p> <p>【読み解く力を育む指導】</p> <p>○5W1Hの視点から必要な情報を取り出させる。</p> <p>○問題の共通点、相違点、つながりを考えさせる。</p> <p>○「目的と手段」や「原因と結果」の関係から捉えさえ、「つまり～」を使って説明させる。</p>
算数	<p>全学年</p> <p>○問いをもたせ、自力解決、比較・検討、共有、まとめという学習の流れを意識して授業を行い、児</p>

童が学習の見通しをもてるようにする。

○既習事項を活用して、校内研究の柱である「問いと共有」を意識した授業を展開し、児童の学習に対する意欲を高めるとともに、話し合いの場の設定を行い、主体的・対話的な学びとなる授業を展開する。

○子ども達から考え方や、学習への態度に関わる言葉を引き出し、それを価値付け学級の文化とする。
(ことバンク)

低学年

○既習事項の復習を繰り返し行い、計算力の積み重ねを行う。

○具体物を使って、量感を育てる学習を意識して取り組む。

○1つの数を他の数と関係付けてみるなどして、数の感覚を豊かにする指導をする。

【読み解く力を育む指導】

○文章問題に示された条件や問われていることに印を付けて、問題を把握する力を付ける。

○文章問題に書かれている場面を簡単な図を描くなどして、問われている内容を確実に捉えられるようにする。

○条件不足や条件過多の問題に取り組むなど、解決に必要な条件と問われている内容を確実に捉えられるようにする。

○具体物を操作しながら考えさせて、問題を把握したり様々な解決方法を見いだしたりできるようにする。

○それぞれの考え方の共通点を見付け出す活動を取り入れ、統合的な思考力を養う。

○10の補数など、児童が楽しみながら考えられるような活動を取り入れる。

中学年

○九九の習熟の徹底をする。筆算の仕方の習熟を徹底する。

○数直線、テープ図など図を活用して問題を解く習慣を付けていく。

○友達の発表内容を再現させたり、ペアやグループで話し合っ確認させたりする活動を取り入れる。

○文章問題の文章で注目すべき数字や言葉に印を付けさせたり、簡単な数字に置き換えたり、図や表をかかせたりするなどの指導を通して、演算決定ができるようにする。

○全体の中で個に対する指導を大切にする。ペア学習やヒントタイムを通して、疑問や分からないところを様々な場面で共有できるようにする。

【読み解く力を育む指導】

○問題文を把握する力を付ける。課題は何かを明らかにする。

○実際に操作して問題の条件を捉えさせる。

○具体物を用いて数値が何を表しているか確認させる。

○それぞれの考え方の共通点、相違点を話し合い、より良い考えを判断し活用する。

○文章問題に書かれていることを最後まで読むと共に、場面をイメージして文章で問われている内容を確実に捉えられるようにする。

高学年

○ノートをお互いに見合ったり、評価し合ったりする活動を取り入れ、思考の過程が残るようなノート作りを意識させる。

○習熟度別指導で、個別の課題に応じた指導を工夫する。

	<p>○文章問題の文章で注目すべき数字や言葉に印を付けさせたり、簡単な数字に置き換えたり、図や表をかかせたりするなどの指導を通して、演算決定ができるようにする。</p> <p>○教科書に出てきた式や、友達や自分の作った式を読む活動などの数学的活動に取り組む。</p> <p>○中学校の連携を意識し、四則演算の徹底をする。</p> <p>【読み解く力を育む指導】</p> <p>○問題文を把握する力を付ける。課題は何かを明らかにする。</p> <p>○実際に操作して問題の条件を捉えさせる。</p> <p>○具体物を用いて数値が何を表しているか確認させる。</p> <p>○それぞれの考え方の共通点、相違点を話し合い、より良い考えを判断し活用する。</p> <p>○文章問題に書かれていることを最後まで読むと共に、場面をイメージして文章で問われている内容を確実に捉えられるようにする。</p>
理科	<p>全学年</p> <p>○ポイントや条件が分かるように提示する等、活動前の準備を大切にする。</p> <p>3年</p> <p>○差異点や共通点を基に、問題を見いだすための書く活動や話し合う活動を設定し、問題を意識した上で観察・実験活動に進むような授業展開にする。</p> <p>○学習に出てきた用語を使って、観察・実験の振り返りやまとめをし、基本事項を押さえる。</p> <p>○問題把握→予想→実験方法の検討→実験→結果考察の学習過程で授業を行う。</p> <p>4年</p> <p>○問題把握→予想→実験方法の検討→実験→結果考察の学習過程で授業を行う。</p> <p>【読み解く力を育む指導】</p> <p>○既習事項や資料を多く活用し、変化や違いを正確に読み取らせる。</p> <p>○資料から読み取ったことを関連付けて、推論させる。</p> <p>5年</p> <p>○新しい実験の際に、既習の実験方法や器具の使い方を再確認する。</p> <p>○問題把握→予想→実験方法の検討→実験→結果考察→結論の学習過程で授業を行う。</p> <p>○体験活動を取り入れ、自ら考え、仮説を立てる授業を多く行い、主体的に問題解決しようとする態度を養う。</p> <p>○実験等を行い、分かったことなど、その知識を定着させる時間を設定する。</p> <p>6年</p> <p>○観察や実験の予想、実験方法を考え、観察や実験の結果をもとに考察をさせ、ノートにまとめる指導を継続する。</p> <p>○実験の目的を明確にし、科学的な思考が育つ話し合い活動、体験活動を積極的に取り入れる。</p> <p>○実験等で使用する器具の正しい使い方を、引き続き再確認する。</p> <p>【読み解く力を育む指導】</p> <p>○資料を多く活用し、変化や違いを正確に読み取らせる。</p> <p>○資料から読み取ったことを関連付けて、推論させる。</p>
生活	<p>○「観察時のポイント」を事前に確認したり掲示したりする。</p> <p>○他の児童が発見したことや感じたことを聞いたり、良さを見付けたりする活動を多く取り入れる。</p> <p>○活動の楽しさを十分に味わわせて表現する意欲を高めるとともに、紙芝居や絵本、劇化など表現活</p>

	<p>動の幅を広げる。</p> <p>○児童の作品やつぶやき、観察カード、相互に教え合う活動や表現活動等から、児童が気付いたことを教師が見取り、価値付けて全体に返すようにする。</p> <p>○地域のお店や施設に出向き、実際に地域の方と交流する活動を計画的に設定する。</p> <p>○保護者ボランティアを活用し、児童が安全に活動できるようにする。</p>
音楽	<p>低学年</p> <p>○男女関係なく交流できる表現活動を多く積み重ねる。</p> <p>○わらべうたやリズム活動を通して友達と声や動きを合わせたり調整したり、身体で拍感をつかんだりさせる。</p> <p>中学年・高学年</p> <p>○練習した成果を出せるように、発表する機会を設ける。</p> <p>○譜読みの苦手な児童には、階名を書いた楽譜を用い、技能の習得に集中させる。</p> <p>○授業中に習得できなかった部分の大きい児童に対しては、休み時間、放課後等を活用して個別指導をする。</p> <p>全学年</p> <p>○個人や少人数で演奏する機会を常時活動として取り入れ、人前での表現に慣れさせていく。</p> <p>○友達の表現に対して、肯定的に反応するような環境づくりを心がける。</p> <p>○ペア学習等では、相手の演奏を聴くポイントを絞って伝えたり、演奏の良かったところ・工夫したところについて共有したりできるように指導法を工夫する。</p> <p>○発達段階に応じて、楽譜からわかること(旋律、音色、リズムなどの共通事項)をICTを用いて全体で共有し、表現につなげていくための具体的な手立てについて指導していく。</p> <p>○児童の実態について学級担任と連携を取り合い、集中して学習に臨めるように生活指導面からも対処していく。</p>
図工	<p>全学年</p> <p>○授業規律の徹底、あいさつ、返事をする習慣付けをする。</p> <p>○安全に作業できる学習環境を作る。</p> <p>低学年</p> <p>○学習活動の説明の際には、作業手順を板書するなどして活動の流れが視覚的に分かるようにする。</p> <p>○模範やタブレット等を使って、具体的にやり方が分かるようにし、見通しをもたせてから活動させる。</p> <p>○学習内容の説明の際には、全員が聞いて分かるようにグループごとに説明する等の工夫をする。</p> <p>中学年</p> <p>○主体的・意欲的に取り組める活動計画を立てる。</p> <p>○模範やタブレット等を使って、具体的にやり方が分かるようにし、見通しをもたせてから活動させる。</p> <p>○作品のイメージをつかみやすくするために、具体的な作品や資料の提示を増やす。</p> <p>高学年</p> <p>○主体的・意欲的に取り組める活動計画を立てる。</p> <p>○模範やタブレット等を使って、具体的にやり方が分かるようにし、見通しをもたせてから活動させる。</p>

	<p>○対話的な活動をより多く取り入れた活動をする。他者との表現の違いを知る事で、色々な考え方や表現の違いがあることを理解する。</p>
家庭	<p>○生活経験の異なる児童同士で教え合ったり、学び合ったりできるように、席順やグループ編成を工夫する。</p> <p>○日常生活に役立つような実習を多くし、具体的に考え、楽しく実践できるようにしていく。</p> <p>○事前学習や事後学習をしっかりと行い、学習の過程を記録させる。</p>
体育	<p>全学年</p> <p>○集団行動の基本を身に付けさせる。</p> <p>○外遊びを励行し、運動の日常化を図る。</p> <p>低学年</p> <p>○約束やルールを明示することによって、約束やルールを守って運動する意識を育てる。</p> <p>○様々なあそびを経験させ、基本的な動きや運動感覚を養う。</p> <p>○めあてをもって取り組ませ、めあてについて振り返ることができるようにする。</p> <p>○見付けたコツや友達のよさを発表する活動を取り入れ、学び合いができるようにする。</p> <p>○勝ちたい気持ちを肯定しつつ、励ますことによって次への意欲につなげるとともに、勝敗を受け入れる態度を養う。</p> <p>中学年</p> <p>○体づくり運動の用具を操作する運動の中でボールを操作する時間を意図的・計画的に設定し、ボールの操作に慣れさせる。また、ボール運動の中で、ボールを投げる動きを取り入れ投動作を習熟する。</p> <p>○それぞれの運動の技能ポイントを明示し、技能ポイントに関連させて自分の動きを振り返らせる。</p> <p>○運動の系統性を踏まえて、既習の動きがどのように生かせるかを例示する。</p> <p>○ペア学習やグループ学習の際、技能ポイントをもとにお互いの動きを見合いながら学び合いをさせる。</p> <p>○様々な技能水準の児童が協力して学ぶことが体育学習の前提であることを確認し、どの児童も活躍しやすいルールを考えさせる。</p> <p>○友達のよさを認める時間を設定し、学び合う態度を養う。</p> <p>○勝ちたい気持ちを肯定しつつ、励ますことによって次への意欲につなげるとともに、勝敗を受け入れる態度を養う。</p> <p>○話し合いのポイントを明示し、目的意識をもって話し合いができるよう指導する。</p> <p>高学年</p> <p>○それぞれの運動の技能ポイントを明示し、技能ポイントに関連させて自分の動きを振り返らせる。</p> <p>○ペア学習やグループ学習の際、技能ポイントをもとにお互いの動きを見合いながら学び合いをさせる。</p>
外国語活動	<p>中学年</p> <p>○ゲームなどの活動を取り入れ、児童一人一人が楽しみながら活躍できる場を設定する。</p> <p>○ALTと担任が連携し、大きな声で話しても恥ずかしくないと感じさせる雰囲気を作る。</p> <p>高学年</p> <p>○ゲームなどの活動を取り入れ、児童一人一人が楽しみながら活躍できる場を設定する。</p>

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">○ペア活動などによる練習を繰り返し、自信をもって表現できるように工夫する。○ALTと担任が連携し、大きな声で話しても恥ずかしくないと感じさせる雰囲気を作る。○中学校の教員との連携をし、指導に生かす。 |
|--|---|